

古墳時代以降

古墳時代以降の遺構として、土壇墓1基、土壇12基、溝4条を検出しました。また、須恵器の杯や亀山焼の甕の破片が出土しています。

このような遺構や遺物が見つかることから、古墳時代以降の人々もこの場所を利用していたことがわかりました。



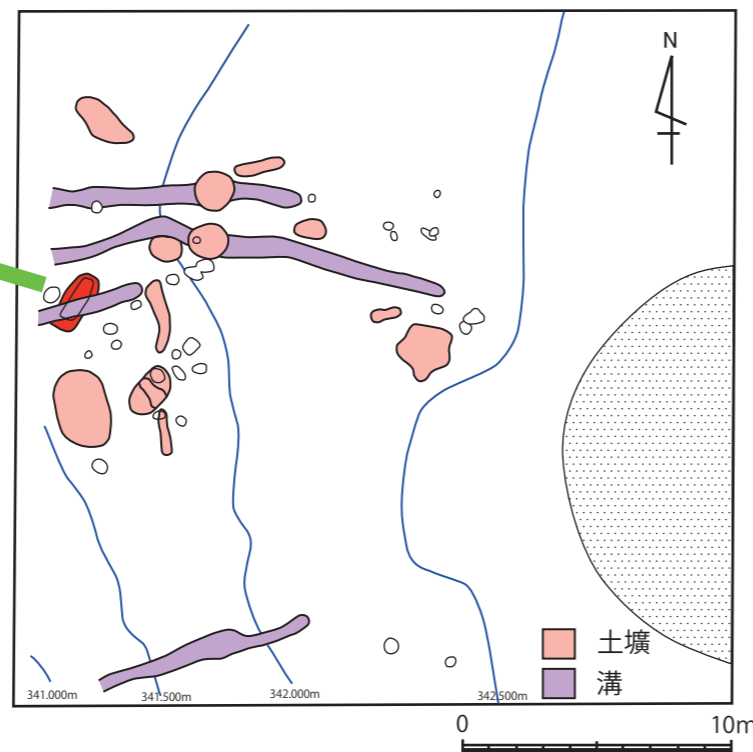
▲ 古墳時代以降の遺構全景(北西から)

土壇墓



楕円形状に2段の掘り込みがありました。形状から墓ではないかと考えています。土器などが出土していないため、時期は不明です。

また右の写真のような形をした石製品が出土しています。



古墳時代以降の遺構全体模式図

まとめ

今回の発掘調査では、弥生時代後期の竪穴住居や掘立柱建物などが見つかり、弥生時代後期には、集落が営まれていたことが明らかになりました。この集落は標高340mという高い地点であり、高地性集落と位置づけることができます。さらに竪穴住居も建て替えが行われており、長期間にわたり、この場所を生活に利用していたことも判明しました。また、今回の調査地点の西側尾根の頂部にも竪穴住居跡が見つかっており、集落の存在がわかっています。その集落と今回の調査地点の集落との関係性や、低地の集落との関係性などについては、今後の検討課題です。

ちくりんじてんもんだい 竹林寺天文台遺跡の発掘調査

調査主体：浅口市教育委員会

調査担当：国際文化交流課

浅口市鴨方町 鴨方 2244-2

0865-44-7055

調査期間：平成20年4月30日～

調査面積：700㎡

日時：平成20年7月12日(土) 10:30～12:00

場所：岡山県浅口市鴨方町本庄・小田郡矢掛町南山田



▲ 竪穴住居の調査風景



△ 瀬戸内海を望む

はじめに

竹林寺天文台遺跡は、竹林寺山東側の尾根の頂部、標高340mの高地に位置しています。天候の良い日には浅口市内だけでなく、岡山市、瀬戸内海や香川県を望むことができます。

平成17年に行われた試掘調査により、東側の尾根にも遺跡の広がりが確認されたため、発掘調査を行うこととなりました。

当教育委員会では竹林寺天文台遺跡の出土遺物や記録写真の一部を展示するとともに、現地での説明会を開催することにいたしました。なお、発掘調査および現地説明会を実施するにあたり、多くの方々のご協力とご理解を賜りましたことを御礼申し上げます。

調査の概要

- ・弥生時代後期……^{ほったてばしら}竪穴住居3軒・^{どこう}掘立柱建物2棟・土壇21基・溝3条・柱穴多数
- ・古墳時代以降……^{どこうぼ}土壇墓1基・土壇12基・溝4条・柱穴多数

弥生時代後期

< 約1,900年前 >

弥生時代の遺構として、竪穴住居4軒（建て替えも含む）、掘立柱建物2棟、土壇21基、溝3条を検出しました。また、壺・甕・高林などの弥生土器、石鏃・石斧・石錐・石錘・敲石などの石器、土製勾玉・土玉・土錘などの土製品が出土しています。土器の特徴などから、弥生時代後期であると考えられます。

調査地点は標高が340mの高所であり、高所に集落が営まれていることから、竹林寺天文台遺跡は高地性集落であると位置づけることができます。

2. 竪穴住居

調査区の西側中央部で検出した竪穴住居です。竪穴住居は円形で、直径が約8.3mと大規模な住居です。住居の中心部には中央穴があります。柱穴はどの穴も深く、平均で約60cmの深さがあります。東側は基盤の地形が高くなっており、住居を建てる際に、平坦にするために、基盤を大きく掘削していることがわかりました。当時の人々は、かなり大がかりな工事を行っていました。

また、この住居からは石鏃2点、土製勾玉などが出土しています。



▲ 竪穴住居の検出状況(南東から)



▲ 竪穴住居の掘り下げ状況

1. 竪穴住居

調査区北東部で検出した竪穴住居です。一度建て替えを行っていたことがわかりました。最初の住居は円形で、直径が約6.3m、柱穴を8本持つ住居です。住居の中心には、中央穴がありました。

建て替え後の竪穴住居は円形で、直径が4.5m、柱穴を6本持つ住居です。この住居には、北東へと延びる排水溝がつけられていました。排水溝は北東へ行くにつれて、深くなっています。この住居の中心にも、中央穴がありました。

こちらの住居からは、石錐、土錘や弥生土器の鉢が出土しています。

建て替え前と建て替え後では住居の規模が縮小し、それに伴い、柱穴の数も減っています。さらに、排水溝が付くなど構造的な変化もみとることができました。



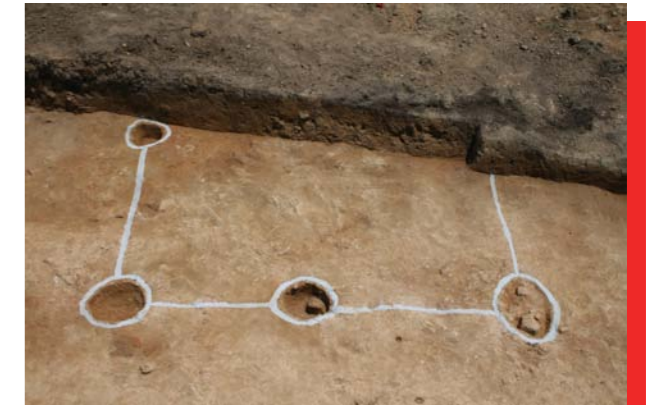
▲ 当初の竪穴住居(南から)



▲ 建て替え後の竪穴住居

3. 掘立柱建物

調査区の南側で検出した掘立柱建物です。現状で1間×2間の建物ですが、南側へと延びていると考えられ、規模がもう少し大きくなると思われます。柱穴の大きさは30~50cm程度です。柱の間の距離は南北方向で230cm、東西方向で170cmです。



▲ 掘立柱建物(北から)

4. 掘立柱建物

調査区の北東部で検出した掘立柱建物です。1間×1間の建物で、柱の間の距離は約270cmです。柱穴は直径約70~90cmであり、深さは平均で40cm程度です。柱穴や柱間の距離から、大形の掘立柱建物であったと考えられます。



▲ 掘立柱建物(北から)

